

153号
Autumn
2020

まごころ



全国まごころケアネット



もみじ

CONTENTS

巻頭言 「頑張らない」

1

孫子老だより ～健康管理はユーモアと笑いで～

2～4

センターだより

4～8

まごころエッセイ

9～10

寄稿「戦争体験を継ぐ」

10～15

事務局通信

16

頑張らない



特定非営利活動法人
日本ケアシステム協会
会長 兼間 道子



最近、頑張らない人生が流行っているらしい。いったい、どういうことなのか。韓国で25万部超のベストセラーとなって話題を集めている。興味半分で目を通した。つまり、人の目を気にしないで、頑張らずに好きなように日々を暮らすことを推奨している。

著者はいく「危うく一生懸命に生きて人生を台無しにするところだった」と。ゆうゆうと日々を過ごそうと決意して実行した著者が、頑張ることの意味を考えて生きづらさから解放されたというもの。

一生懸命に頑張って物事に打ち込むことで将来が約束されていると信じて日々を生きることこそ価値があり、一生懸命でないのは怠惰だという風潮に疑問を呈する。

特に日本人の多くがそう信じて頑張っているという。休む暇なく働くこと、勉強すること、何に対しても頑張ることこそ価値があり、頑張らなくては駄目だと自分に課して大切な人生をあくせく生きている人のどれほど多いことか。

頑張れば必ず成果が期待できる、周囲からの「頑張れがんばれ」の叱咤激励に応えれば、上手くいくのか、すべてがそうとは限らない。結果を生むこともあるが、報われないことも少なくない、大切なことを失うこともあるかもしれない。

果たして、どうだろう。でも、結果はどうあれ好きなことに好きなだけ打ち込める人生ならラッキーだ。心を病むほどなら頑張らなくていい。

まごころ 孫子老だより

健康管理はユーモアと笑いで

長かった梅雨がやっと明け

たら途端に猛烈な暑さとなり、コロナ対策のマスクや換気もしなくてはならず、今年の夏は例年以上に暑さが身にしました。秋を迎え、天高く馬肥ゆる秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、文化の秋、音楽の秋、一年で一番過ごしやすい季節のはずではありませんが、みなさまいかがお過ごしでしょうか、お変わりありませんか。そろそろ元気を持て余している頃かと思ってお便りしました。

コロナと共存する生活様式は不便さも多々ありますが気疲れが溜まらないようご自愛ください。またこのような大変な状況の中、目に見えないウイルスと奮闘されておられる介護、医療従事者のみなさまへ、常に皆さんは、不安と疲労でいっぱいだと思います。私たちの見えないところで、命懸けで戦っている多くの人に、敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

コロナが長引く中、体力的に精神的にも辛いかと思いますが、皆様がいってくださいているお陰で、私達は日常生活出来ています、皆様のご健

康を心よりお祈り申し上げます。

御多分に洩れず、耳にタコほど聞いた例の「新型コロナウイルスの影響」により、活動自粛で、このお便りも新ネタがほとんどありません、テレビ番組同様、3年前ぐらいの孫子老だよりの原稿をコピペ再放送も検討しましたが、多くの読者ファンの皆様の期待を裏切って、冬号で打ち切りです、と事務局から最期通告を受けるかもしれませんので、残り少ない歯磨きのチューブを絞り出すような感じでお便りいたします。

コロナ禍の世の中にあつてみんな思っているけど口に出せない話題についてわたくしの私見と偏見に基づいて書いてみました。

①本当に有効なワクチンの開発と
全国民への接種完了までは、あと3年はかかる？

②東京オリンピック、パラリンピックは気持ち的には開催したいが本音では、多分、無観客、縮小、種目限定開催かどちらかになるだろう。半分諦め感が漂う。

③最近のテレビのCMの時間が長

く感じるのには勘違いだろうか。

④十萬円の特別給付金を貰った子供たちの中で、「今まで育ててくれてありがとうございます、ほんの気持ちです」と親に感謝の意味でプレゼントした息子や娘が何人いるだろうか？

⑤百円均一の店で買い物をしたときのレジ袋不要で、裸の商品を持って出るとき、誤解を受けにくい少しハラハラする。

⑥買い物に行った時、レジ袋とマスクを忘れて店内の百均で応急的に買った買い物袋がまあまあ溜まっている。

⑦精算時のトレイによる受け渡しも結局お互い手で触っているのでは何の感染予防かわからなくなる。

⑧世の中のあらゆるボタン、ATM、エレベーター、つり革、ドアのノブは毎回除菌されているわけでもないのに神経質にならずに気づいたときに手洗いうる程度でしか対処できない。

と思う程度で良いのではないか、でないと除菌グッズを持ち歩いたり、手袋をする生活しかない。確か

にエスカレーターに乗る度に手袋をつける、おばあさんを何人か見たことがあります。

⑨今年の紅白歌合戦は、無観客でやるのが決まったが、どんな雰囲気になるのだろうか、盛り上がるのかな？箱根駅伝はどうなるのでしょうか。

⑩変わったデザインや浴衣や着物生地の手作りマスクの柄が気になる。また、つけている人と手作りマスク製作談義や購入情報などマスクが話のきっかけになることが多くなった。

色々な場面や状況でコロナ禍の生活様式に戸惑うことが続いています。慣れるまでが大変ですがお互いしっかりと乗り越えましょう。

食品名は、おなじみなのに、

材料を度忘れする時があるので、おさらいしたいと思います。先ずは、

①奈良漬けの材料は何でしょう？
正解は瓜です瓜を塩漬けにして何度も酒粕で付け替えたものです。

②千枚漬けの材料は何でしょう？
正解はカブです。京都の漬物で

す。

③福神漬けの材料は何でしょう？

正解、主には大根です。

④しば漬けの材料は何でしょう？

正解は、茄子です。

次は子の親は何でしょう

か？

⑤イクラの親は何でしょう？

正解はサケかマスです。未成熟

なサケ、イクラの卵巣はイクラ

と言わずに「筋子」と呼びます。

⑥数の子の親は何でしょう？

正解はニシンです。

⑦タラコの親は何でしょう？

正解はスケトウダラです。

⑧カラスミの親は何でしょう？

正解はボラです。言わずと知れた高級珍味です。

⑨キャビアの親は何でしょう？

正解はチョウザメです。これも高級珍味ですね。

全問正解の方は素晴らしいです。

孫にいつ聞かれても漬物の材料ぐら

いは即答出来るといいですね。でな

いと**チコちゃんに叱られます**

よ！



山歩きの趣味もコロナ禍で

は、定員45人乗りの大型バスに20人までの人数制限が一般的になり、近県、日帰り登山の費用が7千円から1万円越えになるようになってから、申し込みも競争率が上がり、費用も値上がりで参加が厳しい状況です。

月2回の陶芸教室もやってみ

て初めて土の難しさを知りました。小学生の凶工の粘土ぐら位と思って始めましたが、隣のおばさんのパランスの悪い湯飲みが先生から「味がある」と褒められたときは、俺はまだまだ素人だと自覚しました。その後、そのおばさんは、創作意欲満点の作品を作り続けていますが「下手くそ」と「芸術」のボーダラインが若輩の私には見えておりません。まだまだ修行不足です。

コロナ禍は、おそらく将来の近

代史に必ず載る出来事です。今は、まさに、その真ただ中において体験しているのです。不自由なことばかりと悲観してはいけません。リモート授業、リモート放送、非接触機器の進化、エレベーターは空間認識ボタンやスマホの画面でエレ

ベーターを呼ぶことも可能です。

店に直接、買い物に行かなくてもネットでも購入できます。ドローンが空から配達してきます。決済はスマホです。お金を触ることもありません。007の映画の世界が現実化するのも、そう遠くありません。

空間に操作盤やら画像が現れる3D実機の登場も近いでしょう。リモート恋愛、リモートデート、非接触夫婦生活も話題になるかもしれません。私は、コロナ禍の以前から夫婦関係は、リモート会話、非接触生活、適切な距離を保ち続けているため、家庭内ではありますが濃厚接触は皆無です。理想的な未来型夫婦です。

【まごから面白方言の紹介】

「体調が悪い時、地元言葉でなんと云う」

北海道、北関東「こわい」群馬「だるい」甲信越、東海、福井、中国地方、香川は、「えらい」滋賀、香川以外の関西圏は「しんどい」九州「きつい」

「とても、たいへん」な様を何と

いう

岡山は「ぼっけえ」広島、山口は「ぶち」福岡は、「ばり」「ばさら」

大分は、「しんけん」宮崎は「てげ」佐賀は「がばい」長崎は、「いじ」

関西は「えらい」静岡は「えーかん」愛知は「でら」千葉は「あんもかんも」

新潟は「なまら」北海道、青森は「たんげ」宮城は「いきなり」

「ものもらい」のことを地元では何という

東日本は「ものもらい」宮城は「ばか」関西では「めばちこ」広島、香

川は「めぼ」愛媛、徳島、山口では「めいほ」高知は「めぼう」

北海道は「めっぱ」熊本は「おひめさん」佐賀は「おきやくさん」

「カタツムリ」は地元言葉で何という

大阪は「デンデンムシ」広島「マイマイ」

まったく聞いたことのない方言もあります。面白いですね。

【まごころから面白川柳】
第20回シルバー川柳より

・ばあさんの 手作りマスク
息できず

・妻が言う ひとまず預かる

給付金
・テレワーク やってみたいが
俺無職

・ゴミ出しの 俺とカラスは
顔なじみ

・入らない 母の入れ歯で 騒ぐ父
・妻の留守 たっぷり醤油
寿司刺身

・耳鳴りも ピーシーアールと
音がする

・頭頂部だけが見えてる
オンライン

・武勇伝 俺の話は 無観客
・失言は 家庭内でも 命取り

・婚活の 殺し文句は
「看取ります」

・問診に オレより 妻が答えてる
・白黒の ネクタイで足りる
定年後

・手をつなぐ 孫の手の位置
高くなり

新型コロナナ、風水害と心落ち着かない日々が続いています。いつかこ

れらが終息し平穏で無事な日常が皆様に訪れますようお祈り申し上げます。

孫子老太郎

センターだより



まごころケア 旭川センター

センター長が代わりました

センター長 武田 明子

旭川の夏は例年北海道とは思えない暑さが続くのですが、8月の声を聴くと急に朝夕涼しくなります。でも、今年の夏はいつまでも真夏日が続き、地球温暖化を実感する毎日です。

今年旭川センターにとって大きな変化の年になりました。平成4年にセンター設立以来ずっと私たちの先頭に立ってくださった松田センター長が顧問に就任。代わって武田明子がセンター長に就任しました。

これまでは事務局として長い時間をまごころで過ごしてきましたが、センター長の重みをずっしりと感じております。不安の一つがセンター長会議。極度の方向音痴のため、一人で旅行したことがなく、会場にひとり着けるか気がかりです。一緒に行ってくれる保護者を募集しているところです。

私も含めて旭川センターのみんなにとってセンター長とは松田前センター長という意識は変わらないように思います。これからも全国の会員の皆様のご指導をいただければと願っています。

コロナの影響は旭川センターでも深刻です。毎月のヘルパー会議を分散会議にしたり、利用者の皆様へも文書で注意喚起をしたり、東京から家族が帰省したヘルパーは2週間自宅待機をしてもらったり。現在はヘルパー、利用者はじめ家族も含めて一人も感染者が出ていませんがこれから一層注意をしながら生活していかねばと申し合わせているところです。

まごころケア 塩釜センター

車両内の飛沫防止スクリーンについて

門脇 俊

ウイルス感染予防対策お疲れ様です。感染予防の終点は未だに見えてきませんが、今出来る事をひとつひ

とつコツコツと続けていく事が最大の予防対策であると考え、利用者さんと一緒に日々活動しております。その中で、予防対策の一環として各車両に飛沫防止スクリーンを作成しました。

アクリルシートにマジックテープの痛い方を両面テープで張り付ける。これでは強度不足の為、マジックテープの上からホチキス止める。あとは、車両の天井に貼るだけ！

利用者さんにとって、少し煩わしく迷惑を掛ける装備かも知れませんが、簡単に作成出来ますのでご興味のある方はお試しく下さい。

コロナ禍でもまごころを信頼し、笑顔で通って頂いている利用者さんや通院されている利用者さんへの環



境作りは大切だと思います。

コロナが明けたときに、アレは良かった。コレはダメだった等の意見を利用者さん達と笑いながら反省したいものです。また、一日も早くコロナ禍が過ぎ去り、平穏な日常が戻る事と全国大会が再開し各センターの皆様と交流できる日が無事に来る事を願っております。

まごころケアサービス 福島センター

「まごころ」に寄り添って

木村 貴子

皆様お変わりございませんか。

今年の夏は、新型コロナウィルスと猛暑との熱い闘いの日々でした。



ケア中、拭っても拭っても汗は流れます。どんなに暑くてもマスクは外せません。今年の夏ほどダイエツトしとけば良かったと思った年はありません。

利用者さんの中には、「もしヘルパーさんが感染したら生きていけません。」などと不安な気持ちを訴える方がいました。私たちスタッフ一同は、利用者さんの気持ちに寄り添い「まごころ」でケアさせて頂くことを誓いました。

今年は、全国大会で皆さんとお会いすることができず、寂しかったです。来年こそはお会いできることを楽しみに、老体にムチ打って今日も元気に行って来まーす。

まごころサービス 倉敷センター

活動状況並びにトピック

大変な時期、事務所・ヘルパー一丸となり新型コロナ感染予防対策に挑んでいます。高齢者がいかに安心して楽しく暮らせるかを毎日話し合

い、事務所全員で一人一人のニーズに合うように検討を重ねながら介護する側の安全・安心にも気を配る毎日です。

国や官公庁などからのマスク・消毒液などの援助もあり大変感謝しております。

しかし安全な備えにはまだまだ万全とは言えず、皆で模索しながらそ



の目を無事過ごせるようにと頑張っています。

そんな中、倉敷センターでは国の支給以外にもヘルパーに手作りマスクを提供しました。事務所で手の空いた人が作っています。それを見た友人や介護関係者が我が家族にも作って欲しいと注文が殺到し材料費のみを負担してもらいお譲りしています。

自粛生活で息が詰まるような毎日、ちょっとしたほっこりタイムです。

まごころケア 国分寺センター

つもり・つもりのデイサービス

センター長 川上美佐子

新型コロナウイルスの感染防止の対応を始めた二月末頃から、介護の現場では緊張が走り、職員も利用者さんも、マスクに消毒、手洗い、うがいと細心の注意を払いながらの日々が続いています。

皆が外出をためらい、一時期は家

族介護が可能な利用者さんには、自宅待機をお願いする事もありましたが、1ヶ月が限度で、ご家族も利用者さん自身も利用を希望されました。外部からのレクリエーションに来てくださったボランティアさんにも中止をお願いしたり、他者との接触をできるだけ抑えて限られた条件の中で、体力や気力を落とさないように、笑顔を保つやさないようにと、職員一丸となって対応しています。

夏祭りは中止となったため、利用者さんには室内でかき氷を食べていただき、夏祭りのつもりになっていただきました。ダイルールの壁には皆で作った魚たちがいっぱい泳いで

います。部屋全体が水族館のようで、これも水族館に行ったつもりです。

楽しみの一つである食事も、あまりおしゃべりをせず、職員手作りのアクリル板を置き対応しています。何かとご不便をかけていますが、利用者さん達はよく理解してくださり、職員にねぎらいの言葉をかけていただいたりして、楽しい雰囲気です。

早々のコロナの終息を願う心と、今後のデイサービスの在り方を考えるチャンスと捉え対応していきたいと思えます。



まごころケア 屋島やすらぎ

屋島やすらぎはパラダイス

コロナ コロナ 猛暑 猛暑と何
もできない毎が続いていますが皆
さんお元気ですか？そんな暗い毎日
の中、やすらぎからは少し癒される
話題をひとつ。

屋島やすらぎに来られた方はご存
じでしょうか、ここは瀬戸内海国立
公園の中にあるため建造物が勝手に
建てられないこともあり自然豊かな
場所にあります。

毎年、三月の後半になるとウグイ
スが「ホーホー」と鳴き出し1か月
くらいたつと「ホーホケキョ」とそ
れはそれは上手に歌ってくれます。
デイサービスの利用者さんたちも
「上手、上手」とほめるので「ホー
ホケキョ」も上手に歌ってくれます。
ほめて育つタイプのウグイスのよう
です。

五月から六月のため池の水のゆる
抜きをするころになると、道を亀が
ゆつくりと歩く姿が見られます。亀
が道路を横切るので交通渋滞が起き

ることがあります。のどかな風景な
のですが、その亀、道を横切った後
速足で逃げて行きます。なんとも外
面のいい亀なんでしょう。

そして昨年頃から、すぐ横の畑で
雑草処理のためヤギが二頭放たれて
います。

時々「メー」と鳴きます。春か
ら夏にできた新芽を飽きることなく
一日中食べています。箸休めに役所
から届くイヤイなお手紙も食べてく
れるでしょうか・・・。

なにかとストレスの多いこのご時
世。心を癒しに屋島やすらぎに来て
みませんか？



まごころケア西春日

介護の仕事に目を向けては：

センター長 笠井 圭介

コロナウイルスの感染が終息しな
いため、混とんとした日々を過ごさ
れているのではないのでしょうか。特
にサービス業では、売上げが減少
し、倒産や失業を余儀なくされてい
るようです。本当にお気の毒です。

しかし当センターも含め介護事業
はどうかといえは、感染予防に細心
の注意を払い、様々な対策を講じな
がらも変わらずに事業は続けられて
います。当センターの利用者様もデ
イサービスを中止することなく利用し
て下さっていることに感謝したいと
思います。

社会的にも介護の仕事の大切さが
世間の人にも認知されたのではない
かと思ひ、この機会に介護の仕事に
目を向けていただければと考えま
す。

厚労省の最新統計によると訪問介
護について、人手不足を感じている
事業者は平成21年で33%だったの

が、29年度には65・2%と増加して
いて、その主な理由は採用が困難と
のことでした。

ちなみに、60歳以上の訪問介護員
は全体の38・4%、50歳以上とする
と63・7%と施設系事業所に比べ特
に高齢化が進んでいます。

私たち介護職も特に若い人たちに
何らかの形で介護の仕事のすばらし
さをアピールできたらと思っていま
す。何か良い方法があればお聞かせ
ください。今後ともよろしくお願
いいたします。



まごころサービス 徳島センター

訪問介護

利用者が「濃厚接触者」になった場合は

徳島センター長 道辻 明子

◎今年の九月五日「コロナウイルス・インフルエンザ同時流行に備えて」徳島県の長寿いきがい課より、「新型コロナウイルス感染症予防対応チェックリスト」が届きましたので、まごころの介護従事者や事務局職員・NPOボランティア協力会員等へコピーして自己点検表☑に記入して九月二十八日までに出していただくようお願いしました。「濃厚接触者」訪問時の留意点や緊急連絡体制の方法等も添付してお送りしました。

事務局体制や職員、家族への健康、利用者さんや家族への対応について気持ちを引きしめていますが、こんな時こそ笑いが大事と思って「シルバー川柳」を本屋さんから買ってきました。

笑いが大事こんな時 川柳

シルバー川柳より

・何をしに ここに来たかを考える

・入らない 母の入れ歯で 騒ぐ父 ばあさんの 手づくりマスク

息でできず

・もの忘れ 行ったりきたりので

一万歩

・スクワット しゃがんだままで

立てません

・我が家では 濃厚接触

ととなし

・売ってない 極楽行きの

パスポート

・脳トレを 毎日してます

探しもの

・美男とか 美女とかもはや

どうでもいい

・君の名は？ 孫の名前が

読めなくて

・おかずより 薬が多い

朝ごはん

・聴力は 下がるが悪口

よく聞こえ

・調理機の ブザーの音に

返事する

・みどり児の 笑顔に似れど

深きしわ

・一声が 老いの孤独の

カンフル剤

〈雨にも負けず 台風にも負けず

コロナ禍を乗り越えて

元気な明日をつくりましょう〉

まごころケア高松

介護福祉士実務者研修スクーリング

介護福祉士実務者研修（通信課程）のスクーリングが8月6日から9月17日まで毎週木曜日、全7日間の日程で始まりました。今回の受講生は8名で女性7名、男性1名でした。皆様勤務しながらの受講で、職場は全て介護現場で、訪問系4名、通所系2名、施設系2名と多彩です。資格も1級有資格者から無資格者まで。経験も年齢も様々な中で開講されました。

今回はコロナ対策として消毒、検温、マスク着用、そしてソーシャルディスタンスを保つため机の間隔を広げ、クーラーをかけながら窓を開放するなどの対策をとり、いわゆる三密を防ぎながらの講義となりました。

それでもマスクの上から笑顔があり、マスクの下からは色々な職場体験を通じての有意義な経験談が出たり、笑いもあつたりと、普段の業務の疲れも感じさせない和やかな雰囲気でした。

通信課程では実施できない事例研究の演習では、情報収集、情報分類、課題の抽出、介護計画の作成などについて、積極的に取り組みました。

また、通信課程で習った社会保障、成年後見制度等々も振り返り、再確認しましたし、看護師からは医療的ケアについて演習を交えて学びました。毎回、受講後は皆で役割分担して教室の片付けや掃除を行いました。

2級ヘルパーなど有資格者は9月、無資格の方でも11月末には卒業となります。その後、サービス提供責任者となられる方、また令和3年1月の介護福祉士の試験合格を目指す方がいます。どうか皆様目標が成就されますようお祈り申し上げます。



まごころエッセイ

風に揺れる タオル

松田 正弘 さん

62歳 / 京都府京都市在住。30歳の時に京都・錦市場入口近くに食堂・居酒屋「風景」を開店。32年間、変わらず店に立ち続けている。

(公社)全国老人福祉施設協議会
第16回「60歳からの主張」
令和元年度入賞受賞作品

「レズンデートル」という言葉を初めて目にしたのは二十代の頃、もう四十年くらい前になる。村上春樹の小説を読んでいて、レズンデートルという聞き慣れない言葉に出くわした。意味が知りたくて辞書で調べた。フランス語・存在理由。「存在理由……、ふーん」。その時はそれだけのことだった。けれどその後、いろんな場面で僕はその言葉の凄さを知ることになる。

京都の錦市場近くに食堂・居酒屋を開業して三十二年になる。定休日の日曜は、長年通ってるジムへ行ったあと母の住むアパートへ直行し、

母と二人食事をする。そんな日曜日
がもう六年続いている。

六年前、僕の姉が突然逝った。
五十七歳だった。二人姉弟で、町田
市へ嫁いでの三十年間も姉は、
アパートで独り暮らしをする母に
しょっちゅう電話をかけ、話し相手
をしてくれていた。

父は三十代のある日、姉も僕もま
だ幼い頃に心筋梗塞で突然消えた。
母が三十二歳の時だ。以来母は再婚
もせず、がむしゃらに働きながら僕
と姉を育て上げた。

八十五歳で突然最愛の姉を失った
母の憔悴は予想以上に大きかった。

葬儀の翌日に腸閉塞を起こし緊急手術、入院。退院後も生きる気力が萎え、生活は規則性を失い、眠るために薬を乱用した。

生きていたってマーちゃんに迷惑をかけるだけの存在、早く主人と佳代子がいる向こう岸へ私も行きたい。そんなネガティブな言葉ばかりが増えていく。正直、僕も妻も、母をもて余していた。

妻と相談し、思いきってふたつのことを実行した。ひとつは、タオルや布巾や前掛けなど、毎日欠かせない店の洗濯物を母に洗濯してもらおう、というもの。家事にパートに忙しい妻にとつて、毎日のそれは結構な負担になっているということもあるが、必ずしなくてはならない仕事を母に与える、というものが秘かな目的でもあった。

もうひとつは、僕が日曜日の昼食を母のアパートで二人で食べる、というものだ。母の手料理を差し向かいで食べながら、父や姉の思い出話を聞いてやるだけでもずいぶん安らぐんじゃないか……。

見事に母は生き返った。洗濯は、自分が息子の役に立っている、とい

う歓びを母にもたらし、必要とされている自分の居場所と自らの存在理由を母に与えた。いつも天気予報をチェックし、前掛けのほころびを直し、漂白剤や洗濯石鹼にもとても詳しくなった。

そして日曜日の献立を考え、スーパーへ買い物にも出かけ、朝からあれこれ調理して僕を待つ。毎週食卓には手間ひまのかかった食べきれないほどの手料理が並ぶ。

六十歳を超えた今も僕には店がある。毎日たくさんのお客様がランチに来てくださり、夜は一杯ひっかけがてら僕とおしゃべりをしに立ち寄ってくださる、そんな日常の中で僕は自らのレズンデートルを感じながら暮らせている。「求められている」という実感が僕を突き動かし、頑張ろうという意欲をもたらす。

僕たちは、年齢を重ねれば重ねるほど公私共に自分自身のレズンデートルが希薄になってゆく。必要とされていると実感できる場所が減ってゆくのだ。

九十歳を過ぎててもなお、毎日毎日自分のためじゃない洗濯を張り切っ

僕も自分がお店に立てなくなつた時の居場所を考えざるを得ない。その時には妻や娘が僕を必要としてくれるような存在でいたいと、強く思うこの頃である。

午後三時過ぎ、今週も母が暮らすアパートに到着。母の部屋の前にはいつもどおり、きれいに洗濯された十枚ほどのタオルと布巾、それに白い前掛けが物干し竿に吊るされ風に揺れている。

ガラガラガラ……、引き戸を開け僕はいつものように靴を脱いで上り込む。

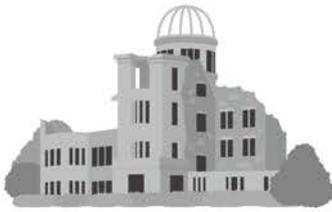


寄稿「戦争体験を継ぐ」

寄稿者：野上 さくら

太平洋戦争が終わり今年の夏で75年を迎えました。実際に戦場に赴いた方々はもとより、子供時代に戦争を体験された方々も徐々に少なくなりつつあります。

これらの記憶を風化させることなく後世に語り継ごうと、高校の卒業研究（卒業プロジェクト）のテーマとして取り組んだ研究成果をシリーズでご紹介します。



第三章 戦争経験者

インタビュー

・三章のはじめに

○ コラム集 全十回

・「戦争当時の朝鮮の人たちの実態」

・「一緒に生きていきたい」

・「誰が加害者なんだ？」

・「あの頃に似てるって？」

・「戦争が奪うもの」

・写真資料

この章のはじめに

高校二年生の時に初めてインタビューをし、その後何度か戦争経験者の方達へのインタビューを行った。

インタビュー

・村上凡子さん

・林隆さん

・高橋和子さん

講演会

・アツシユ・キリエ・ウールソン氏

・米澤鐵志さん

今まで戦争資料館でも多くのものを得たが、三人の実際の生きた人間

から教わることはもっとリアルで重いものだった。

しかし不思議なことに、資料館を訪れた後の帰り道は暗い気分なのだが、経験者の方々にお話を聞いた後に希望に満ちているのだ。それはきつとお話ししてくださった方々が、私に過去を語ってくださった後、最後にこれからの未来への道を照らす、そんな言葉をかけてくださるからだだろう。また、彼らの話は衝撃を受けるだけではなく、家に帰った後もずっと考えさせられるようなものがいくつもあった。

しかし、そんな彼らの声を直接聞くことができるのも私たちが最後の世代となるだろう。戦争を体験してきた方達であり、また戦争を放棄し、平和な世界を作ってきた方達でもある。彼らの声を聞いたことはこの卒業プロジェクトにおいてだけではなく、私がいきていく上で、いや日本の社会においてまで極めて重要なことだと思っている。

この章ではインタビュー活動中に私が学び、考えた重要なことうちのいくつかを述べた。

第一回 インタビュー記録

「冷たい祖国」 林 隆さん 1

「中国残留孤児」。この言葉を聞いたことがあるだろうか。第二次世界大戦末期、日本軍が占領していた満州に旧ソ連軍が侵攻したため引き上げる日本人らが中国へ残した子供達のことである。終戦まで満州には百万人以上の日本人がいた。

林隆さん（八〇歳）は一九三九年十一月六日に満州国（今の中国）に生まれた。山形で農業をしていた家族は少しでも良い生活を求めて開拓団として満州へ渡っていたのだ。

一九四五年、林さんが五歳のころ、母、兄弟たちと歩いていると突然ソ連の戦闘機が飛んできた。その爆撃機が落とした爆弾で林さんは吹き飛ばされ意識を失った。目がさめると家族は誰もおらず一人ぼっちだった。見知らぬ日本人に連れられ中国人養父母に預けられた。

養父母に二人の娘がいたが、彼女たちと同じように愛してくれた、学校にも通わせてくれ、爆弾の後遺症の治療のために病院の近くに引っ越ししてくれるほどだった。この家族のことは大好きだったが、いつも日本

のことが忘れられず、情報はないかと耳をすませていた。

「この養父母は私が世界で一番愛し、尊敬する人です。」そう語る林さんの笑顔は悲しそうにも見えた。

一九六六年に文化革命が起こり、養父母は日本人を育てたからと土地と財産を取り上げられた。養母は拷問を受け、家族はバラバラになった。その後養母と物乞いをして生活したが、受けた拷問が原因で養母は亡くなった。四十八歳の若さだった。

その後は再会した養父と生活しながら実親探しをした。しかし自分の名前は忘れており、思い出せるのは家族構成だけだった。努力の末、日本に引き上げていた実の両親が子供に当てた手紙を受け取ることができた。宛名には「林隆様」と書かれていた。涙が溢れた。

一九八一年、待ちに待った一時帰国。両親、そして日本で生まれた弟と再会したが、もちろん日本語は話せないで通訳を通し会話をした。「一緒に暮らしたい」という気持ちを伝えた。しかし父に「ここに永住させることはできない」と強く反対され、無理やり中国へ返されてし

まった。林さんは両親を恨んだ。しかし今の林さんは「今考えれば恨むべきは両親ではなかったと思う」と語る。

「国は敗戦時に私たちを見捨て、帰国の件では父に悲しい思いをさせ、私が父母を恨むような事態を生じさせたのです。」林さんはこう本に記した。



もちろんこの話は彼ら中国残留孤児の問題ではない。昔日本政府がしたこと、そして今の日本社会のあり方の問題が大きく関係している。よってその社会を作っている私たち一人一人にも責任がある。「どうかしよう」と日本社会に生きる私たち皆が意識しないことは、彼らを冷たく放置することと同じではないだろうか。

私は過去を知り、考え、行動し、彼らを祖国へ暖かく迎えられるよう

な人間でありたい。（次回に続く）

第二回 インタビュー記録

「中国と日本理解する」 林 隆さん 2

林隆さんは一時帰国から五年がたった一九八六年やっとの思いで日本（京田辺）に中国人の妻、二人の子供と共に永住帰国した。林さんは四十八歳なっていた。日本での生活は苦しかった。

家族のため仕事に就いたが、日本語が読めず、後遺症のためもあって長くは続けられなかった。仕事を転々とし、働いてはその度に体が持たず退職するということを繰り返した。

ある職場では誰もしたがらないきつい仕事を回され、周りの人は「林」とは呼ばず「中国人」と呼んだ。最後の職場である精北小学校の校長先生は親切だったがここでも体はもたなかった。結局日本に帰ってきてから一一年間働き続けたが年金はわずか二万九千円だった。

長男は帰国当時十五歳だったが日本語ができないため小学校四年生に編入した。ひどい苛めにあい、頭を

殴られ血を流して帰ってきた時もあつた。高校を卒業し、就職先の職場でもいじめは続き、普通の人より厳しく怒られた。「でも、僕は日本語も話せないし彼のために何もできなかった。」と林さん。

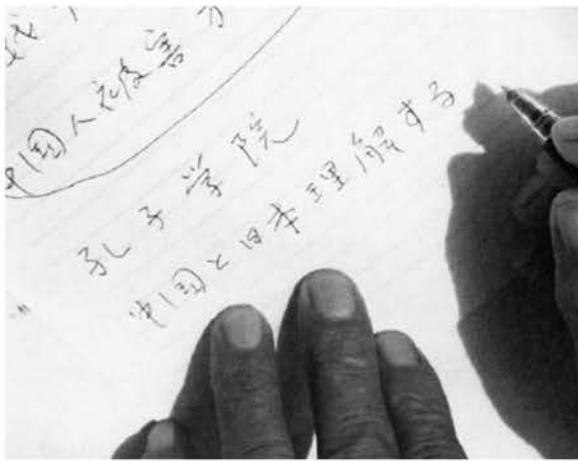
国は通訳の世話などは何もしてくれなかった。帰国後に生まれた娘の保育所の入所時には「私は中国人であるため入所を希望します」と書くように言われた。林さんが「行政は孤児の事など全く理解してくれません。」と言うのも無理はない。

一方で、いつも助けてくれる支援者がいた。林さんが「竹内先生」と呼ぶボランティアの方は林さんの子供が学校で喧嘩して呼び出された時には代わりに学校へ行き、病院へ行く時には一緒に行って医者に説明してくれた。他にも日本語通訳が必要な時にはいつもきてくれた。

二〇〇三年、林さんは他の残留孤児の方々と一緒に京都地裁に国家賠償訴訟を起こした。祖国に日本人として差別のない生活を求めて。訴え続けて五年後、二〇〇七年に新法が設立された。「今は支援金ももらえない。そして、日本人として選挙に行

けることが一番嬉しい。」と笑顔を見せた。

最後に私はこれから私たちはどう行動すべきかということについて伺った。彼は中国と日本、韓国と日本が喧嘩することなく仲良くやっていくことだとおっしゃった。今日の中・日韓関係はどうだろうか？これからの社会を創りその世界を生きたい。私と同じ年代のみんなと考えた。



(ノートに書かれた「中国と日本を解する」の文字)

さっていた。彼がその紙に書いた「日本と中国仲良くする」の文字。これには林さんの心からの願いと希望が込められているのではないだろうか。

第三回 インタビュー記録

「兄を奪った戦争」

村上 凡子さん 1

「兄二人がもし生きていたら、生きていてくれたらって時々ふと思えます。戦争は私から兄を奪いました。」

一九二二年、岡山県に五人兄弟の末っ子として生まれた。大阪の国民学校を六年で卒業し、女学校へ入る年に太平洋戦争が始まった。

しかし、戦争は激しくなる一方で女学校の三年生ごろから軍需工場で働くことを強制された。学校へは通ったが、授業というものはほとんどなかったという。この頃、凡子さんが聞いていたのは「日本は勝ち続けて南方へもどんどん進んでいる」というものだった。これらのことが事実と違っていたことは、ずいぶん後になってから知った。

一九四四年、凡子さんは母と兄、

主(つかさ)の元へ向かった。この戦争で亡くした二人の兄のうちの一人である。要件があるのですぐにきてほしいという本人からの手紙があつたからだ。母は兄が特攻兵だと知り、兄に会っても言葉が出なかつた。彼は母に今までのお礼を言い、しばらく話してから「ありがとうございまして。では行ってまいります。」と言った。これが二十三歳の兄から聞いた最後の言葉だった。母は声を殺して静かに泣いていた。のちに主さんから届いた手紙の最後には「返無用」と書かれていた。

一九四五年三月一三日、村上さん一家は大阪大空襲に遭った。一万人以上が亡くなったと言われている大規模な空襲である。「焼け野原になってしまつて。方々で焼け死んだりした人がいるのよ……。」そんな状況のなかなんと女学校を卒業し、安心して生活のできるようにと広島女専に進んだ。

担任の先生が他府県からきた凡子さんたちを連れて「広島市の街を見せてやりたい」と広島市の街を案内してくれた。産業奨励館(原爆ドーム)などを見学し、最後に比治山から広

島の街をみた。「なんって綺麗な街で
んびりした…、あー綺麗な街だなと
思っ、感心したんだけど…。」
八月五日、広島女専生たちは最後に
美しい広島街を見たのだった。

そして八月六日、ちょうど朝礼が
終わったところだった。皆と変な爆
音がすると言っていた矢先にピカッ
と光った。

翌日から訳も分からぬまま怪我を
した人たちの看病に追われた。「も
う、皮膚はズルッと剥けて、体液が
滲み出してる人たちをマグロみたい
にずつと並べてね。痛いかお水く
れとかいろんなこというから走り
回ってね。」

火傷を負った五歳ぐらいの男の子
がいた。その子は多くの人がやって
いたように爛れた腕を上につき上げ
ていた。そして「お母さん、お母さん」
と言いながらついに母に会うことな
く死んだ。涙を浮かべながら。凡子
さんは、亡くなる前に、一度でもそ
の子の母の代わりに「大丈夫よって
抱いてあげればよかった」と今に
なって思うという。「前途のある子
供たちがいっぱい死んだ…」と空
中を見ながら語った。

「今また、だんだん戦前の嫌な世
の中になりつつある。戦争がいかに
愚かであるのかに気がついて、人と
争うエネルギーをもっと違う方向に
使ってほしい。」と言う彼女は心配
そうだった。

これからの社会のあり方は、私た
ち若者の意識と行動次第であるのだ
と改めて気づかされた。

(次回へ続く)



第四回 インタビュー記録

「若者の未来が心配」

村上 凡子さん 2

「戦争は兄を奪いました。」そう語
る彼女自身も大阪空襲に遭い、安全
な場所だと思われたと広島へ越した
がそこで原爆により被爆した。

私は、夏に再び凡子さんを訪ね、
お話を伺った。

問：戦争が奪うものは何ですか？

答：失うことばかり。戦争は失う
ものだけしかない。何もかもなくな
ってしまふ。自分の感情も失う。
命をも…。だから何が失われるか
という、全て。戦争の一番いけな
いところは、戦争になってしまった
ら自分が生きるために人を殺さなく
てはいけなくなることです。みんな
一人一人の命は大事なものののに、
戦争が起こるとそういう気持ちで全
部飛んでしまうんですよ。自分が生
き抜くために人を蹴落とさなきゃい
けなくなるの。何とか止めることが
できないのかと思うけど、今は逆の
方向に向かっているように思えて仕
方がないです。今の若い人たちは戦
争の恐ろしさを身に染みて分かって
ないだろうと感じるのよ。

問：当時の社会に違和感はありません
か？

答：子供だったから何にも知らな
かったけど、どこか変だなと思っ
ていた時もあったかもしれないで
すね。勉強するより工場で働く方
が多くなくて、おかしいと思う
反面それを打ち消そうとする気持

ちもありました。戦争が終わって
から、自分たちがやっていたこと
は間違っていたんだなとつくづく
思います。だからこそ、今は再び

そうならないように平和を考えて
いかなといけない時代じゃな
いかな。あなたとあなたたちと子
供達が生きる日本がどんな風にな
っているかが非常に心配です。

問：戦後は何が変わりましたか？

答：戦争が終わって初めて、格差社
会、経済社会、歴史を歪めて教育
を受けていたことを知り、平和運
動や労働運動が盛んになった。で
も、それもいつの間にか平穏な生
活が当たり前になり、なくなりつ
つあります。戦争っていうのは一
番惨めな人がいつも苦しい目にあ
わされるのよ。

問：若者が政治に興味を持つべきで
すか？

答：そうねえ。日米安保条約の時に
は学生たちは政治に対して関心が
高くて、その関心を広げていこ
うとする学生も多かったんだけど
…。過去の問題ではなくて自分

て欲しいと思います。

たちの未来にかかっているんだということを自覚することが大事だと思います。社会のあり方を考える必要があります。でも結局、いろんな考えを聞き、その中から自分でこれがたいたいと見分ける力を今の間につけてもらったらそれが一番大切だと思います。

問：若い世代にメッセージをください。
答：戦争は、本当に何にもなくなるんです。命ももちろんそうだし、物もなくなります。家族もいなくなる。いいことって一つもないじゃないですか。京アニの事件があったでしょ。みんな集まって死を悼んでお祈りをして献花して、そして涙を流してる人が何と多いことか。お金も6億ぐらいますぐに集まったらいいじゃないですか。そういう力があるんですよ。エネルギーがある。だから戦争に反対する力も絶対ある。でも、本当に心配です。自分が直接話をした人がこの先どんな社会で生きていくのかと考えると、本当に戦争には飲み込まれないようにしていい

第五回 「俺たちがハジのために止まることはない！」

イラク戦争帰還兵

アッシュ・キリエ・ウールソン氏 1

(アメリカ) (三十八歳) は二〇一九年七月、宇治での講演会で自身の体験を語った。イラク戦争の帰還兵である。

学生の頃に学費を賄うため、ウィスコンシン州兵になった。アメリカでは学費のために軍隊に入るということは珍しくない。2003年2月(二十歳)のある日、軍からの電話で「派遣される。どこかは言えない。期間も言えない」と告げられた。派遣先がイラクであることが知らされたのは軍の飛行機の中だった。

彼らは、イラクの人々を「ハジ」と呼ぶように教えられた。「使い続けるうち、イラクの人を椅子や机と同じように見るようになっていきました」こういった言葉を使うことで相手を非人間化し、敵を殺すことが簡単になるのだという。様々な訓練

によりアメリカ兵は残虐になっていき、ついには敵国の者だけでなく自国の人々に對してもその残虐性を見せるようになる。しかし、それは訓練の「成果」であり、その残虐性こそ軍の望むところなのである。

彼の戦地での任務は軍用車の運転だった。車列の先頭車を運転していたある時、道の脇に止まっている車を見つけた。そこには一組の家族が乗っており、銃に打たれた子供の血で窓はべつとりと汚れていた。そして泣き声が聞こえた。助けようとスピードを落とすと、「ウールソン。何してるんだ！止まるな。俺たちがハジのために止まることはない！」一緒に乗っていた高官に怒鳴りつけられた。ウールソン氏はアクセルを踏み通り過ぎた。心の底から戦争は嫌だと思った。

帰還後、何度も夢にうなされPTSDと診断された。PTSDの症状は眠れない、極度に集中した状態が続く、などがありウールソン氏の場合強い怒りを感じるといった症状が大きく現れた。しかし、これらの症状を抱えることは戦地で生き抜くための手段でもある。彼は「PTSD

Dは戦場の非現実に対する当たり前の反応。私たちが特別おかしいのはありません」と訴えた。世間では「障害」と呼ぶが、それは適切な認識ではないのかもしれない。

また、ウールソン氏はアメリカ社会についての違和感を語った。イラク戦争時、アメリカでは集めた税金の約二五割が国防費として新しい武器・兵器の開発など、戦争のために使われた。「そのお金で他国に介入し、紛争を起こさせたりするのです。政府は道路を直したり病院を建てたりするのにお金がないと言います。が、笑い話ですよ」

そして次のように続けた。「私たちは私たちを『先を見通す賢い類人類だ』と言いますが、実際は類人類以下なんじゃないかと思えます。本当の意味で私たちに賢さがあれば、イラク侵攻が何をもちたらすのか分かったはずですよ。しかし、兵士として戦地にいた当時の私は状況を把握することができていませんでした。この侵攻が多くの痛みを生み出し、たくさんのものを破壊していることに気がつかなかったのです」その顔は悲しく辛そうだった。

彼はもちろん加害者である。しかし加害者である彼もまた被害者であるのではないだろうか。本当の加害者とは誰なのだろうか。そんなことを考えさせられた。(次回に続く)



第六回 「人を殺す戦争という

機械の部品だった」

イラク戦争帰還兵

アッシュ・キリエ・ウールソン氏 2

二十歳でイラクに派遣されたアッシュ・キリエ・ウールソン氏。イラクからの帰還後に、イラク戦争の実態を知った。

イラク戦争はアメリカを中心に二〇〇三年から二〇一一年まで続いた軍事介入である。米国ブッシュ大統領は「イラクが大量破壊兵器を隠し持っている」と主張し、当時の最高権力者サダム・フセイン、またそ

の政権を打倒することを目的に開戦した。正規軍の戦闘は短期間で終了したものの、フセイン政権の残党、イスラム過激派などの反乱により厳しく激しい戦いが始まる。この混乱の戦闘は8年に渡り続いたが、新たに就任したオバマ大統領が米軍の撤退を優先させ、二〇一一年に終戦となった。しかしその後も過激派組織(IS)の支配などにより戦闘は続き「イラク戦争は今も続いている」と言っても過言ではない。

「私たちは、今だに続いている市民戦争を引き起こしたのです。私たちはISがやっていることを残虐だと言いますが、彼らを残虐で暴力的にしたアメリカこそ残虐なんだと思います。」ウールソン氏は深刻な表情で語る。

そして、自分自身が戦地で行ったことに対してはこう語った。「私は実際に人を殺したことはありません。しかし、私が起こした行動によって亡くなった人は多くいます。私は人を殺す戦争という機械の歯車の一部分になっていたので。戦争に行つて私がしたことはすべて、私が思う良い人間がすることではなく、

学校で教えられた良い市民の姿とは正反対のものでした」

戦争がもたらす悪影響は人間にだけではない、地球環境にまで広がる。イラク戦争で使われた戦闘機、B52は一分間で約三百リットルのガソリンを使う。この戦闘機を十分飛ばすことで排出される二酸化炭素の量は一般車両が一年間に排出する二酸化炭素の量に相当する。アメリカは二酸化炭素の排出量が中国に続き2位(日本は5位)。一人当たりの排出量は中国の2倍ほどもある。しかし、地球温暖化に対してパリ協定など様々な国際的な取り決めが作られる中、アメリカはそれらの活動に否定的だ。それに対して「私たちの国は自分たちの未来を、子供たちの未来を考えていないのです」と、ウールソン氏。

一方でアメリカ軍は完全に悪い軍隊ではないとも語った。共同してコミュニティのために活動することもあるからだ。実際に軍では戦闘以外にもコミュニティ活動のための訓練も受け、それらの活動をとっても得意としているのだそう。軍はこれ以上人を殺すためにお金を使う

のではなく、コミュニティ活動を増やしたり、再生可能エネルギーのために投資するなど、明日の未来の生活を守るために使われるべきなのです」そう最後に力強く締めくくった。

彼は現在、二〇〇七年から始めた平和活動をアメリカや日本で続けている。また、退役アメリカ兵が集う「反戦イラク帰還兵の会」(Iraq Veterans Against the War/IVAW)に参加し、芸術家としてストリートポスターによる反戦活動をしている。

彼が発した言葉には彼自身の覚悟と勇気が表われているように感じた。戦地で行ったことは二度とリセットすることも、償うこともできないのかもしれない。しかし、未来ある若者を戦地に送り出さないために、再び苦痛と悲しみを生まないためにと自身の過去を語っていた。そんな彼の姿を見て、私も勇気を出し、力強く進まなければいけないと思つた。

会報「まごころ」秋号（153号）をお届けします。今年はまだでさえ暑いうえにマスク着用でひと夏を過ごされた皆様、朝夕はやっと涼しくなりましたが体調はいかがでしょう。

今回もお忙しい中、会員皆様から活動状況などたくさん寄せいただきありがとうございます。各センターからのお便りには、やはりコロナウイルス対策の様々なご苦労が感じられました。私たち介護に関わるものとして、ご利用者の安全安心をお守りするのが最重要課題ですので、しばらくは大変な時期が続きますがお互いしっかりと対策をしつつ、情報交換を密にしながら、ともにこの困難を乗り越えましょう。

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（介護分）について

国の本年度第2次補正予算で成立した標記の事業について、県の担当課が申請を呼び掛けています。

事業の概要は

- 1 介護サービス事業所・施設等に勤務する職員に対する慰労金の支給事業
- 2 感染症対策を徹底した上での介護サービス提供支援事業
(感染症対策のための衛生用品の購入等に要した経費への補助)
- 3 介護サービス再開に向けた支援事業

- ・在宅サービス事業所による利用者への再開支援への助成事業
- ・在宅サービス事業所における環境整備への助成事業

などです。

交付申請の受付は、令和2年7月27日（令和3年2月末日）

なお、早期の支払いを期するため申請は令和2年12月末日までに行ってください。

また、申請は原則として事業所毎でなく、法人単位で電子請求システムにて取りまとめて行って下さいとなっています。（香川県健康福祉部長寿社会対策課・資料より）

当事業の執行については、各県において若干の差異があると思いますので、詳細については各県又は市の担当部署にご確認ください。

各センターにおかれましてはすでに手続を進めているとは思いますが、まだのところは早めに担当部署にご相談下さい。

4月に新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が全国に発せられ、不要不急の外出などの自粛が求められました。子供たちは休校、そして経済は低迷しました。しかしその後、夏休みやお盆の里帰りの自粛が功を奏したのか、専門家も峠は越したと発言するなど段階的に自粛や規制が緩和され徐々に日常が戻りつつあります。

今後は更なる経済の回復を目指し、国のGOTOトラベルキャンペーンの対象拡大や各種イベントやスポーツ観戦などの人数制限などの緩和策が検討されているとの報道がなされています。

でも、コロナウイルスの特効薬ができたのでも安全かつ有効なワクチンができたわけでもありません。手洗い消毒、マスクの着用、人との距離の確保など然るべき対策を講じての実施とのことです。専門家は決して予断が

許せない状況に変わりはない、と言っているのでもくれぐれもご注意ください。

三密、いわゆる密閉、密集、密接、を避けましょうと、大勢での会議や会食が自粛され、リモート会議やリモート飲み会などが行われ、意外といいものだ、今後もこの手法を定着させようとの動きがあるようです。

しかし、霊長類学者である京都大学総長の山極寿一氏は次のように述べています。人は視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚の五感をもっています。インターネットではお互い視覚と聴覚しか共有できません。そのような接触方法で信頼関係が築けると感じるのは「脳の錯覚」に過ぎない、と山極教授は述べています。

人が信頼関係を築くのは、五感の中でも他者と共有しにくい触覚、臭覚、味覚という感覚を時間をかけて共有するなかでしか培われないということです。

確かに同じ釜の飯を食った仲間意識とか、母子のスキンシップにより大きな信頼関係が築かれることを私たちは体感しています。リモート会議やリモート飲み会は、すでに信頼関係のできている仲間同士の確認のためには意味があるのでしょうか、新たな人間関係を築くにはどうもあまり有効ではないようです。

来年の総会は皆様方とぜひお会いしたい、

との会員さんの声もありましたが、一日も早くよい治療薬やワクチンの開発が進み、世界中でこの困難な時期を乗り越え、前のように皆が集い、そして触れあえる、そのような時が来るように切に祈るばかりです。

介護保険業務の
様々なご要望にお答えします

介護保険トータルシステム「RelyⅢ」

株式会社

アール・シー・エス

高松市錦町2丁目2番17号
西日本放送錦町ビル
TEL:(087)804-8811
FAX:(087)826-5010

あいおいニッセイ同和損保代理店

(株)フリーエージェント

損保・生保・社会保険労務士
扱っています。

高松市伏石町 2028-2
TEL 087-816-8123
FAX 087-815-1171

実務者養成施設

介護福祉士実務者研修 < 通信課程 >

- ★4月から翌年3月まで毎月受付
「年12コース」各コース定員24名
- ★全国どこからでも応募できます
- ★スクリーング(通学)は
「医療的ケア演習」を含み6.5日間

【照会先】 ラポールカレッジ 研修所 / 事務局
TEL 087-815-0760

〒761-8052 高松市松並町 802 番地 1 / 日本ケアシステム協会内
駐車場有り(無料) / 宿泊 1,000円～

はじめまして
まいたうんメール便
です

高松メールセンターからのご案内
メール便... ハガキ 封書 カタログ など

激安価格で
配達します

お問い合わせは
こちらから 四国メールネットワーク協同組合
(有)タウンネット 高松メールセンター
高松市朝日町4丁目10番60号
TEL.087-813-0426 FAX.087-813-0436
E-mail takamatsu@carol.ocn.ne.jp
http://www.shikoku-mp.com/



www.sanuki-taberu.net

株式会社ウエイ企画 〒760-0062香川県高松市朝日町7-2
TEL:087-837-1159 | FAX:087-897-3007
コーポレートサイト http://www.network-way.com

ハイエース・シエンタ・エスクアアなど
福祉車両のことなら
香川トヨペットにお任せください!



詳しくは香川トヨペットまでご連絡ください。
087-882-5561

総合印刷・イベント事業・マニュアル制作
デジタルコンテンツ企画制作



株式会社 高松 東京

成光社

〒760-0065 高松市朝日町5-14-2
☎087-823-0222 ☎087-823-0211
www.seiko-sha.co.jp

消防設備士の店

四国防災設備
有限会社

消防設備保守点検

〒761-0612 香川県木田郡三木町水上1833-6番地
TEL(087)898-3913
FAX(087)898-8801

ご利用ください。

● E-mail (電子メール) ●



magokoro@hyper.ocn.ne.jp

● URL (ホームページ) ●



http://www.jp-care.gr.jp

編集後記

夏が終わり、秋へと変わる今、寒暖差に体調を崩しやすい季節になりました。皆様、体調はいかがですか。

涼しくなり、過ごしやすい秋、そして食欲の秋といわれるほど美味しいものが沢山ある季節ですね。

この季節が1番好きだったりします。世界中がコロナ禍で大変な今、遠出が出来ず、悲しいですが秋の美味しいものを食べて皆様も元気にお過ごし下さい。

全国まごころケアネット
 特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会
 まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jmss@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂宇南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころケア国見	〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字南54-2	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドウール第2-107号	magokoro12315@nifty.com	043-274-9711	043-274-9718
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@leto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市中区関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	mailka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころケア西春日	〒761-8051 香川県高松市西春日町1510番地1	keisuke64kasai@gmail.com	087-869-1165	087-869-1195
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.or.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぽっかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	tani280610@yahoo.co.jp	0896-59-1150	0896-59-1150

「日本ケアシステム協会」会報
 令和2年10月1日 発行No.153

発行所 〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL087-815-0771 FAX087-815-0773
 編集発行人 兼間 道子
 郵便振替 口座番号 01610-0-92689
 印刷所 (株)成光社

まごころケア高松
 NPO法人 長寿社会支援協会

.....
 〒761-8052 高松市松並町802番地1
 TEL087-865-8001 FAX087-865-8039
 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp
 URL http://cho-jyu.info/